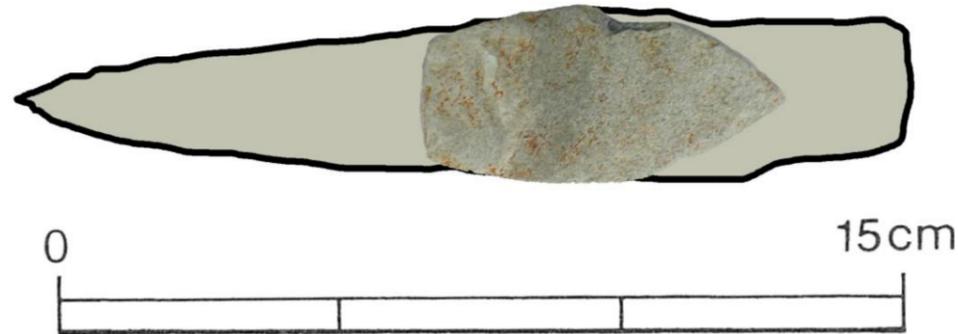




20A 区では弥生土器が多く出土しています。弥生土器は「覆い焼き」という方法を用いて土器を焼いていました(写真右)。「覆い焼き」は土器に藁などをかぶせ、さらにその上に土を盛って焼く方法です。これによって土器を焼く温度が高くなり、縄文土器より固く、薄い土器を生産することができるようになりました。



こちらは③の竪穴建物で出土した弥生時代の石剣の一部と考えられます。石剣がどのような用途で使われたのかについては現在でもはっきりとしたことは分かっておらず、有力な説として武器説・祭祀説・威信財説があげられます。この遺物は、割れた部分が研磨されており、再加工を施すことで別の石器に転用しようとしていたと思われる。

以上が先行調査を行っていた 20A 区の成果速報となります。

古墳群の調査が始まっております。どのような成果が得られるのでしょうか。今後の報告にご期待ください。



~~~~~ 発掘調査だより No.3 ~~~~~

委託者：愛知県埋蔵文化財センター TEL：0567-67-4163 (担当：社本、早野)

ホームページ：<http://www.maibun.com/>

受託者：安西工業株式会社

名古屋支店 TEL：052-769-6500

現場代理人 TEL：090-3704-3565 (中谷)

## 花の木古墳群・花の木遺跡発掘だより No 4



## ◎20A 区調査完了

5月下旬より先行調査を行っておりました20A区の調査が7月をもって完了しました。約700㎡という調査面積ながら竪穴建物跡10棟、土坑20基以上という非常に良好な成果を得ることができました。

出土遺物は弥生土器が主となっており、20A区で確認した遺構の多くは弥生時代のものと考えられます。今回はその成果の中から竪穴建物跡と弥生時代の遺物についてご紹介します。



①は20A区にて確認されている竪穴建物跡の中で、最も小形のものになります。建物の調査を進めたところ、直径20cm程度の粘土塊が確認されました(写真右)。土器を製作する粘土を蓄えていたものと考えられ、こうした粘土の貯蔵は弥生時代ではよく見られます。



②は弥生時代の竪穴建物跡です。20A区で確認した竪穴建物の中では最大級で、大きさは約6m四方、深さは約50cmになります。また、特徴的な遺物として石剣の一部が出土しました。



③はやや小形の竪穴建物です。こちらでは竪穴建物跡の中心付近で焼けた土が確認されました(写真丸部)。この竪穴建物跡では煮炊きなどが行われていたと考えられます。

## 20A 区全景写真